

第4回かながわ寄付をすすめる委員会 結果概要

日時 平成23年8月10日(水) 13時～15時

場所 かながわ県民センターコミュニティカレッジ講義室1

出席者 全委員(傍聴者なし)

1 開会

2 協議

(1) シンポジウム「今、改めて考える寄付」の開催結果について

○7月23日に開催したシンポジウムの結果について、事務局が報告した。

(2) シンボル制作、各種メディアを活用した広報活動について

(3) 双方向Webサイトの構築・運営について

○神奈川県新しい公共支援事業運営委員会において、(2)及び(3)に係る事業企画提案の選考の結果と、選考された事業提案の内容について、事務局が報告した。

○シンボルのデザインやWebサイトの展開、今後の委託事業者との調整などについて検討した。

～主な発言～

- ・デザイン案に国旗や日の丸などの要素が含まれていることについては、受け止め方が様々あるので、慎重に検討した方がよい。
- ・シンボルの選定には、プロセスを明らかにするため、投票を行うことも考えられる。一方で、責任ある者が決断することが適当な場合もある。
- ・NPO情報を提供している民間のWebサイトでは、団体情報の開示度を表示している。NPOの社会的信用を向上する観点から、これから構築するWebサイトに、そうした評価の視点を加えることについても検討したらよいのではないか。
- ・当委員会に、Webサイトの委託事業者が設置しようとしている検討組織のメンバーに出席してもらい、NPOの団体情報等に関する諸課題について議論することも考えたい。
- ・Webサイトを持続可能なものとするには、担い手の負担とならない簡潔なシステムである必要があるだろう。

(4) 委員会企画事業について

○当委員会が企画し、事業者から事業企画提案を募集して実施する事業について、募集案内の内容を確定するための協議を行った。

○最終的な文言の調整については、協議を踏まえて、委員長・副委員長と事務局の間で行うこととした。

～主な発言～

<“寄付の仕組みの充実”に関する意見>

- ・寄付の需給の調査や先行事例の収集は、市民ファンドを設立・運営するためのひらめきや課題を得るために必要なことであるが、報告書にまとめることを要求する仕様にする、結果として調査報告自体が目的になりかねないので避けたほうがよい。
- ・市民ファンドに取り組む人々に役立つ、設立の段取りや運営のイロハが分かるような類の資料は得たいので、募集案内の表現を指摘の内容に配慮したものに変えるのがよいだ

ろう。

- ・「市民ファンド」という言葉の解釈には色々あるので、定義を書き入れ、民から民への資金の動きであることを明らかにしたい。

< “次世代に寄付への理解を広げる学習プログラムの開発・普及” に関する意見 >

- ・普及を求めるなら、実践の場を作ることが必要ではないか。
- ・場としては、学校教育における総合学習のイメージがある。
- ・子ども会や学童保育などに、プログラムと実施をパッケージにして持ち込むなどの方法もある。そうした実績を積み重ねることで、教育委員会への提案や行政との協働などに発展していくのではないか。

< “寄付の成功体験を創出するプログラムの企画・実施” に関する意見 >

- ・多くのNPOは、すでに年間の事業を組み立てて取組みを進めているので、今年度の残り少ない時点で変更を求めるような要件は、募集内容からできるだけ削除すべきだ。
- ・単年度の計画ではなく、複数年度の計画が提出できるようにしたほうがよい。
- ・年度ごとに改めて募集・審査を行う必要があるということなら、来年度の募集は、県内市の事例にあるように、年内に始めるのがよい。

< “評価基準” に関する意見 >

- ・提案内容の評価において、新規性の尺度は審査側の主観に頼る性質があるので、事務局は、事業効果の評価を合わせた判断をするよう、予め明確にしておくことが必要ではないか。
- ・募集する三つのメニューに共通して言えることは、様々な人々を巻き込むことであるので、開かれていて多くの参加を促すものであるかどうかという観点を評価基準の中に加えるのがよい。